

## ショートコメント vol.178 (2020年8月24日)

テーマ：気になる ASEAN 向け輸出の悪化  
～欧米向けの回復が進む中、今や最大の悪化要因に～

### ●全国、関西の輸出は回復傾向

関西の7月の輸出は前年比で11.8%減と、5か月連続の減少となったものの、このところは5月の17.0%減を底に回復が進んでいる(図表1)。

新型コロナウイルスの影響が始まって以降、関西の減少幅は全国よりも一貫して小さい。これは、全国の悪化要因である自動車関連の比率が低いほか、堅調なアジア向けの比率が高い点などが挙げられる。

このまま回復が進めば、8月には1けた台の減少幅となる可能性が高く、いわゆる平時のトレンドに戻ってきたともいえる。リーマンショックの際は、20%を超える減少が1年にわたって続いた。輸出面に限れば、今回の影響はリーマンショックを下回りそうである。

### ●ASEAN向け輸出の不調

そういった中、気になるのはASEAN向け輸出の不調である。輸出先別の動きをみると、かねてから堅調な推移がみられる中国に加え、欧米向けも回復基調にあることから、ASEANの動きの悪さが目立つ(図表2)。

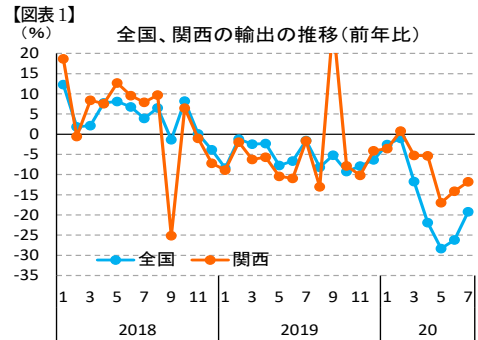
特に、アジアのほかの地域に比べると、トレンドの違いが際立っている。3月ごろまではほぼ同じような推移がみられるが、その後、中国やアジアNIEsが堅調な推移を辿ったのに対し、ASEANだけが右下がりとなっている(図表3)。

### ●悪化が目立つインドネシア、タイ向け輸出

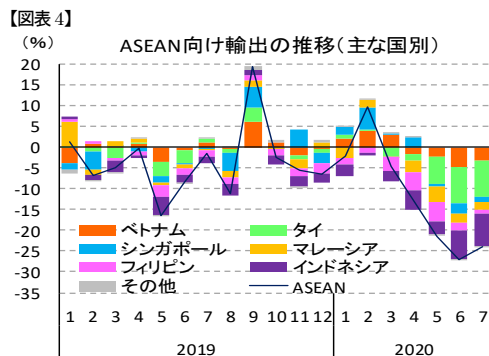
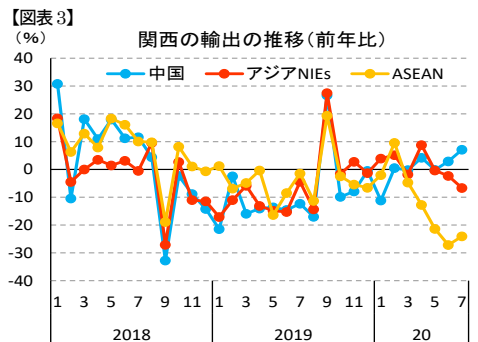
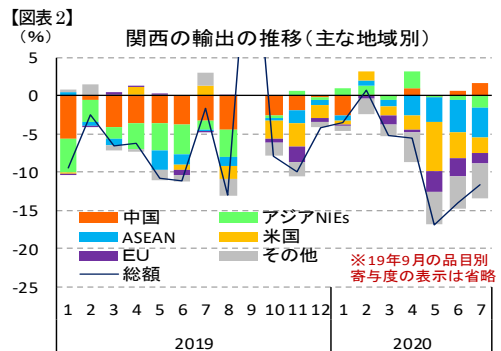
ASEAN向けの輸出を国別にみると、直近で悪化が目立つのはインドネシアとタイであり、両国で減少の大半を占めている(図表4)。ちょうど6~7月にかけて両国の悪化が進んでいることから、まさに足元のASEANの減少トレンドの主因といえる。

ASEAN各国向けの7月の減少率を比べると、多くの国が10%台にまで改善しているのに対し、インドネシアは57.6%減、タイは34.0%減と、その不調は際立っている。

その要因について、改めてASEAN向けの品目別輸出の状況を見ると、大きく減少しているのは「鉄・非鉄金属」のほか、「一般機械」となっている(次ページ図表5)。これらはインドネシ



(出所)財務省「貿易統計」、以下同じ

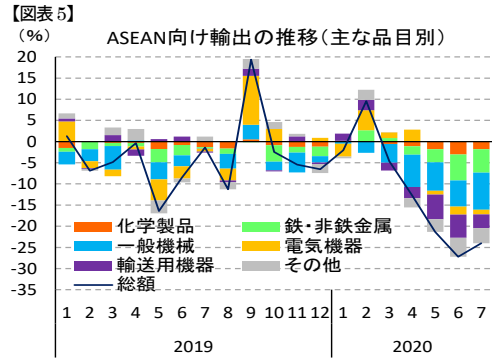


※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ア、タイの不調とも連動しているとみられるが、例えばインドネシアは資源国としての側面から、経済ショックの際は設備投資が冷え込みやすい。「一般機械」の落ち込みはその影響を示唆するものといえよう。豪州や中南米などでも同様の動きがみられることから、世界全体での資源需要の回復が待たれるところである。

一方、タイについては、やはり現地での自動車関連の生産減少が尾を引いているものとみられる。これが「鉄・非鉄金属」の輸出減につながっていると考えられるが、こちらについては、世界的な自動車の生産も増加傾向にあることから、徐々に回復に向かうことが期待される。

いずれにしても、中国や欧米向けの輸出が回復傾向にある中、残るは ASEAN という状況にあるだけに、今後の推移が注目される。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。